



## 子育てに学ぶ おもちゃ（１）

遊びとおもちゃは切り離せないものですが、どんなおもちゃをこどもに用意したらいいのでしょうか。世の中にはこどもをターゲットにしたあらゆるおもちゃがあります。本物と見間違ふほどの果物や野菜のおもちゃを始め、涙を流す人形、電子ゲーム、と挙げればきりがありません。そんな中こどもは遊びを通して自分育てをしていると考え、何が必要なのかという問いにぶつかります。幼いころからスマホやパソコンに囲まれている現代のこどもたちです。こどもが興味を示せばスマホを渡して遊ばせたりしてしまいがちですが、ほんとにそれでいいのかなとその姿を見るたびに感じています。こどもを喜ばせたい、笑顔を見たいと思う私と同世代のばあばとじいじは特に気をつけなくてはいけないなあと思うのです。

前回、こどもの遊びは人として生きていくために自分を育てるための大事な仕事だと書いたのですが、ではその遊びのためにどんなおもちゃが必要なのでしょう。

生まれたばかりの赤ちゃんはまだ目もよく見えず、味覚や臭覚や触覚や聴覚などの感覚が育っていません。そんな中親は赤ちゃんの世話をし、お乳を飲ませ、あやし、触り、抱いて過ごします。やっと遊ぶという行為が出てくるのは赤ちゃんが自分の手の存在に気付くときからです。視覚が少しずつ発達して自分の目の前で焦点を合わせることができ、自分の手が動くという事を発見して自分の身体で遊び始めるのです。首がしっかりして左右を見ることができるようになると近くにあるものに触ってつかんで振り回すようになります。寝返りで移動しながら自分の動きのなかで遊んだり、そこにあるものを見てまたつかんだり舐めたりします。そしてハイハイが始まると一挙に視界が開け、世界も広がってこどもの体験は多彩になっていきます。

こうして赤ちゃんは自分の身体の成長と共に自分の身体が自由に動かせるようになったとき、身体の使い方を楽しみながら広がっていくのです。

ですから立って歩くようになるまでの期間はたくさんのおもちゃが必要なわけではありません。こどもが寝返りを打ったり、座るようになったり、ハイハイしたりすること自体が遊びなので、『つかみたい、触ってみたい、転がしてみたい、鳴らしてみたい』と思えるような単純なものを周りに置けばいいのです。しっかり動ける空間そのものも赤ちゃんにとっては一つのおもちゃと言えるかもしれません。家の中には本当にいろんなものがありすぎるので赤ちゃんが動き回る空間を意識して作ってあげるといいと思います。この頃のこどもたちは何でも口に入れますので、喉を詰めるようなものや尖ったものをおもちゃにしないという事も忘れたくないことです。

この期間、私たちは赤ちゃんが身近で安全なものに囲まれて自由に動けるように準備して見守ることしかできません。あふれるほどのおもちゃに囲まれて行く手を阻まれたとしたら、それは遊ぶことをおもちゃが邪魔することになります。

そして私たち大人も赤ちゃんが安全に動き回れるように赤ちゃんの運動をそっと見守ることだと思います。赤ちゃんが自分の力でしたい体験や体の使い方の習得への道を邪魔しないことです。

でもこれって難しいですね。大人は小さくてかわいい赤ちゃんを助けたくてたまらないし、赤ちゃ

んに構ってもらいたくてたまらないので、つつい手出しをしてしまいますから。

(シュタイナーようちえん メルヘンこども園 教師 田上恵子)